勸善懲悪　官許錦画新聞

第十三號

人の危難を救ふ則測隱の心より大坂第四大區十二小區曽根崎新地二丁目鮓屋吉塚直助の女隱居して曽根崎村あり去る當五月廿日午前十一時ごろ右居他出し留主をねらひ二人の賊忍入りすでに諸品をうばい去らんとせしに此ときに隣家の川内伊兵工の妻おくまこの物音をきつけてうち驚き抱き兒を其まま捨置て急ぎかけ出てこの隱居の本家なる鮓屋吉塚へ知らせんと走るに途中にて木履を途中に捨て跣足にてかけつけ告げうり鮓やの若い者四人手分けの上捉て隱居家へ引連れ二人の賊を捕へ巡邏の屯所へ引渡し物いろ盗まれずして事済むこそ此伊兵工妻おくまが隣家の危難を我子の泣をきを厭ひ本家へ知せし事隣家の好みくらべ依て御上よりこの者へ金五十錢彼の鮓屋の男へも金一円下されしとぞ

時習舍主人述

笹木龍画

新聞局　東京日本橋区通一丁目　藤井時習舍

勧善懲悪錦画図解13号　文庫10-8072-8
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library